

輪中堤・宅地かさ上げ事業に係る相談会

日時・会場：

令和3年11月20日(土)	9:30	中流域（藤本地区、中谷地区）	坂本中学校体育館
令和3年11月20日(土)	13:00	上流域（中津道地区、田上地区）	坂本中学校体育館
令和3年11月20日(土)	15:30	下流域（西部地区）	坂本中学校体育館

○概要

球磨川本流沿い（一部支流沿い含む）で一部損壊以上の被害に遭った世帯、被災証明申請済みの事業所、市政協力員、自治会長、住民自治協議会役員を対象。事務局より輪中堤・宅地かさ上げ事業に係る補足、防災集団移転促進事業についての説明を行ったのち、質疑応答、住民同士が集落ごとに車座となって住まいの再建について意見交換を行った。欠席者含む対象者全員に、住まい再建に関するアンケートを実施。

(1) 事務局より説明

輪中堤・宅地かさ上げ事業に係る説明

防災集団移転促進事業について

住宅再建に係る災害融資制度について（住宅金融支援機構）

(2) 質疑応答

(3) 意見交換

○質疑応答

《中流域（藤本地区、中谷地区） 参加者：77名》

【意見・質問等】

藤本：居住している藤本地区には実際に18世帯地元に住んでいる。2/3近い土地で家屋解体が進み、現地は戦争の跡のような状態になっている。輪中堤・宅地かさ上げについて、なぜかさ上げは個別での判断が求められているのか。我々も住み続けよう、また出ていった人が帰ってこられるように頑張っているが、たとえ帰ってこなくても、このままの状態にしておくことはできない。輪中堤のように地区全体で、宅地を個別にかさ上げするのではなく、地区全体のかさ上げをして、安全・安心を担保した上で、再建を目指してもらった方が良いのではないかと地元では話し合っている。地区では文化財の補修や草刈りなども実施しているものの、世帯数が少なくなってしまう非常に厳しい状況である。地区全体のかさ上げを実施してもらいたいというのが、現在住んでいる者としての考え方である。球磨川の河床が相当上がっており、掘削した土砂の捨て場がないという話も聞いている。そうであれば河川の土砂を取って地区全体のかさ上げに使用することを提案したい。

【回答】

国：再建する人もいればしない人もいるが、地区全体をかさ上げしてもらいたいというご意見だと思う。基本的には現地で再建する人を対象に河川事業として宅地かさ上げを行うこととなるが、できれば集落で合意形成を図って全体としてかさ上げする形になればと考えている。地域のコミュニティを維持していくことも必要だと認識しているものの、河川事業としては現地再建される方を対象としていくというのが基本的な考え方である。河床掘削について、今後も今年の洪水対応で実施していくため、提供してもらえれば盛土するというところもあるのではないかと認識している。

【意見・質問等】

藤本：もう一度お聞きするが、現状では先ほど今回はあくまでも個別で再建される方のかさ上げということでよいか。

【回答】

国：宅地かさ上げ事業についてはあくまでも現地再建される方々対象に考えていきたいと思っている。できれば集落でかさ上げするような形でやっていきたいと思っている。

【意見・質問等】

藤本：輪中堤の判断となれば、地域全体の話になってくる。藤本大門地区は築堤を作ったいただき一年経過したところでそれを上回る令和2年の豪雨災害だった。現在住んでおられる方が関係してくる。かさ上げをしない人も、この間示されたレベルに待てないでかさ上げはないと思うが、住んでいる者としては、関連してくる。今年のかさ上げに関するところで、輪中堤の判断をしていくというのはいかなるものかと思う。輪中堤をもう一回やり直して今度示されたウォーターレベル(災害レベル)まで上げる工事とかさ上げどちらを選ぶかとなっているのか。

築堤を作っていたが水害を受けました。築堤の効果だろうと私は思うが、家は一軒も流されなかった。関係ない人は帰ってもいいのだろうか。

【回答】

国：9月の輪中堤・宅地かさ上げ事業に係る説明会や、第3回復興まちづくり計画策定へ向けた地区別懇談会でも少し触れさせていただいた、今回は緊急治水対策プロジェクトという事業で話を進めている。球磨川中流域は家屋の浸水防止を目的に事業を実施することとなっている。坂本町管内では既に輪中堤ができていく地区が多いが、今回の緊急治水対策プロジェクトでは、最終的に令和2年7月レベルの豪雨に対しても家屋の浸水しないように、既存の輪中堤そのものの全体をかさ上げして地区を守っていく。家屋の浸水防止を目的としている河川事業のため、宅地かさ上げは現地に戻って再建される方を対象としている。また、必要に応じて自治体のまちづくりと連携して、地区の意向に加え、状況を含めて、将来的にどういった地区であったらよいのか等を協議しながら調整させていただきたい。

【意見・質問等】

大門：大門地区については、輪中堤を作って、その中を地区全体でかさ上げするのがよいのではないかとということで話をしていた。かさ上げについては何年先になるか分からないという話があり、それではリフォームもできずどうしようもないということで仕方がなく解体した。数軒残っている方の宅地を個別にかさ上げを行ってもらって、解体済みの土地や畑等が残り、坂道や階段になるような説明もあったが、地区内が凸凹状態になるという話には納得できない。家は流されなかったが被害を受けて解体した。住んでいたところが生活の拠点にならないというのはおかしい。解体して家がない状態のところ土砂を入れてかさ上げしてもらおうようなことをもう少し真剣に考えてもらいたい。

【回答】

国：それぞれの地区ごとにどなたが再建されて、どなたが再建されない、といったご意向が分かれば、色々なやり方を具体的にご相談する場を設けたいと考えている。現時点では代表的である輪中堤・宅地かさ上げの手法の説明に終始せざるを得ないが、地区ごとの状況が分かってくればそれぞれの地区ごとにご相談させてもらいたい。

【意見・質問等】

大門：輪中堤と宅地かさ上げを分けて考えているのも違和感がある。輪中堤を整備した上でその中をかさ上げしたらよいのではないか。

【回答】

国：それぞれの地区でご議論いただいて、皆さんのご意向を把握しながら検討したい。

【意見・質問等】

藤本：藤本地区では以前も宅地かさ上げと築堤の二つの案を提示され、最終的には築堤になった経緯がある。結果として現在の堤防よりも高い水位になってしまったため仕方ない部分はあるが、藤本地区には谷川が流れておりその話を国としたらそれは市の管轄であるということだった。今回も最初に水があふれたのは谷川であり、遊水地のような形で水が

溜まって最終的には2階の屋根からボートで救助された。輪中堤については市の管轄となる谷川の話も含め、内水被害などのデメリットへの対応についての説明をお願いしたい。

【回答】

国：堤防を高くするとどうしても内水被害の懸念が出てくるため、そういったところについては、ポンプの整備などを行うことになると考えられる。その辺も含めて必要な部分については今後協議していくことになる。

【意見・質問等】

坊ノ木場：地区別懇談会の時に質問したが、市では地区別懇談会の会議録を作成しておらず、内部用のメモしかない、また、公開の予定もない、との話だったが、今回の相談会の主催はどこか、また、会議録は公開するのか。簡潔に答えてほしい。

【回答】

市：本相談会の主催は八代市となる。また、会議録を公開するかどうかについては、まだ決まっていない。

【意見・質問等】

坊ノ木場：洪水時の最大流量の見直し案を県知事が受け入れるということを表明されたが、今回の相談会は流量の上方修正を踏まえたものという理解でよいのか。簡潔に答えてほしい。

【回答】

国：治水対策については流量等を見直すことで進めている。本日の相談会については昨年の洪水を踏まえたところでの輪中堤・宅地かさ上げの説明をしており、双方とも家屋の浸水被害を防止するという同じ方向である。

【意見・質問等】

坊ノ木場：油谷川沿いで被災したが油谷川の上流に民間企業のダムがある。直接聞いたところ、60年前に国・県と協定を結び、昨年の発災時も協定に基づいた適切な運用を行ったとの説明を受けた。60年前と気候も大きく変わってきているため、新たに放流のルールの見直しなどが必要ではないか。災害での油谷川の検証も行う必要がある。油谷川沿いで暮らす我々としては、この検証が行われていないと、かさ上げかの判断ができない。検証結果が反映していない、なぜこのかさ上げ高なのかが理解できない。説明を求める。

【回答】

国：利水ダムについては、昨年度から洪水調節にも活用していこうということで検討を進めている。全国的に利水ダムに洪水調節機能を担っていただく方向で活用していく動きで、球磨川の利水ダムも同様である。

【意見・質問等】

下代瀬：配布資料の内容が国の事業の説明だけに聞こえる。市としてまちづくりと連携してどうするのか、というのが良く分からない。内水についても市としてはどう考えている

のかを市からの説明が欲しい。また宅地が個別にかさ上げされて凸凹になるということだが、そうすると再建する坂本支所のところもそこだけ飛び出た形になるイメージになるため、まちづくりとセットで考えていかないとおかしい。防災集団移転の対象については、災害を受けたところだけになるのか。補助事業がこういうものがあるという状況を書いてもらえないか。全国各地でこのようなことが起きているため、防災集団移転は地区ごとでなければいけないということであれば、戻って来ることができない人も出てくるのでは。市としてどこかに宅地を整備してもらえれば帰ってこられる人もいるため、そういった対応についても検討してもらいたい。

【回答】

市：坂本町復興に向けて輪中堤・宅地かさ上げのうち、緊急治水対策プロジェクトの対策後水位を基準にかさ上げしていく部分が市の役割であると認識している。ただしこれは河川事業と連携した部分になるため、住宅を再建される方を対象とした事業である。以前、藤本などで築堤した際には周辺を少しかさ上げたケースなどもあるため、タイミングが あえば掘削土砂を入れてもらうようなことも考えられる。まずは地区として輪中堤かさ上げかということで話し合ってもらいたい。防災集団移転については、坂本町では浸水被害が発生したためその痕跡に応じて移転促進区域を定めることができるが、自然災害が発生する恐れがある区域も対象となるため、地区にハザードがあれば災害前でも実施可能である。被災していない地区でも、もしそういったお考えがあれば話し合ってもらいたい。坂本に帰ってきたいが土地がないか、というご相談もいただいているが、市としては今のところ宅地整備などの計画は考えていない。需要があるようであれば検討したいので、実際に宅地を必要としている方がいらっしゃれば復興推進課にご連絡いただきたい。空き家バンク制度なども活用していただいて、地区の空き家など、地区の状況を市にお知らせいただければと思う。内水について、坂本町全体で支流の河川が大きな被害を受けているため、補助事業を活用して順次対策を実施しているものの、まだ全てに対応することはできていない。小さな河川への早急な対応もできていないことから、身の安全など、ご要望があれば現地調査なども実施して対応を考えたい。坂本建設地域事務所まで情報提供をお願いしたい。

【意見・質問等】

下代瀬：地区全体をかさ上げして輪中堤を整備するのが一番良いのではないかと思うため、検討してもらいたい。

【意見・質問等】

荒瀬：気候が大きく変動のなかで過去最大の水害を受けたという認識は皆共有するところである。熊本県では「緑の流域治水」という新しい方針が示され、感謝する。非常に良いことだと感じるが、今回のプランには流域治水の概念が取り入れられている気配が見えない。地区別懇談会などでも幾度も河道の拡幅についての質問・検討をお願いしてきたが、今まで一度も納得できる回答をいただいているとは思っていない。熊本県でも流域治水に対する大きな会合が開かれたが、その中では過去100年にわたる歴史を踏まえた、土地利用を踏まえた治水対策が議論されていた。大変嬉しかった。つまり、今まで質問してきたことを流域治水の概念で検討してもらえる段階に入ったと理解した。さて、そこまで理解したものと、現実にはなかなかそこまでまだ至っていないのだという思いがある。いろいろな

質問に対する真摯な検討・回答をしてくれる形を望んでいる。議事録が作られて公開されていない、資料が公開されていない中、声を出したら先日の懇談会の資料を公開してくれた。感謝する。つまり何が言いたいかというと、色々な話をするとき、川とともに生きてきた住民が問題だと思うことを、色々な質問したことに対して、真摯な回答をしてもらいたい。丁寧な合意形成を図る土壌をつくってもらいたい。そのためには例えば、内水氾濫に関して市の管轄なのであれば、市の担当者と国、地域住民が現場で顔を突きあわせて現地を一緒に確認するようなそういう時間を作って欲しい。こういう質問や時間の限られた場所で一緒にやることも必要だが、それとは別に丁寧な対応をお願いしたい。その上で、幾度も質問しているが、100年にわたる歴史、土地利用についての歴史を踏まえた治水対策を、流域治水としてとらえるのであれば、荒瀬のところについて、荒瀬の地図では文字が入っていて人も住んでいないようなところ、地図上にさえ描かれていないところ、こちらは何度も言っているが、荒瀬ダム建設の廃土でかさ上げして利用した土地である。現在業者は今のところいない所の河道拡幅をする、堤防の砂を取ってもらえれば、もちろん用地買収なども必要にはなるが、河道を拡幅した場合にはどのぐらい水位が下がる効果があるのか、といった質問を毎回しているが、今まで一度も回答をもらったことがない。大変な作業になるとは思っているが、その上で情報提供という形で、水位やスピードをこれだけ下がるかもしれないという、川幅を広げた流域治水案が坂本でもある程度実現する可能性を含めて検討する情報共有をやってもらいたい。前回懇談会で質問した時には、国からは認識不足の回答があったという認識であり、それくらい情報共有の認識にズレがあるなかで、かさ上げの判断を迫られていると感じている。地域づくりということで前向きに一緒に検討を進めたいと考えている。そういうものを踏まえての質問だが、今後、流域治水の概念を取り入れて、河道拡幅を導入し対策を行う余地は残っているのか。

【回答】

国：中流部については、山が迫る狭窄部で蛇行している場所となっており、スポット的に引き堤を行うことによる効果は限定的であると考えており、川の流れなどに影響を及ぼすことも懸念している。河道拡幅については、河道掘削はやっていくこととしており、そういったところで川に親しむ、漁などといった自然の部分についても、輪中堤・宅地かさ上げなどを実施する場合は皆さんのご意見もお聞きしながら検討を進めていきたいと考えている。

【意見・質問等】

荒瀬：中流域の河道は狭窄部で打つ手がない、という回答だが、それをさらに狭窄部とするような築堤河川対策を実施しようとしている歴史をもう一度踏まえていただきたいというのが質問の本質である。川幅を狭くしてきたところを過去100年に遡って検証してもらおうことがスタートライン、それを踏まえて、治水策、かさ上げ、堤防築堤の線をどこに引くかということをやっていただきたい。それを河道狭窄部に住む地域の人たちの共通意識として話し合いをスタートしていきたいと考えている。狭くなってきた場所はどこなのか等を国だけが調査することは到底不可能である。幸いにも縦割りの仕組みをなくすような、流域治水という概念を熊本県が取り入れると仰っていた。この件に関しては、確かに国の回答があれば、今のような回答をせざるを得ないと思うが、そこを超えた形で、流域治水を取り入れるということで、県と市が検討をして欲しいということが要望である。質問ではない。国には、河道拡幅をした場合、局地的でも良いのでその地区では洪水時の

水位をどのくらい下げることができるのかといった情報を提示していただきたいという要望、その場合にどういった選択肢があるのかという情報の提示をお願いしたい。ということは議事録にしっかり載せてほしい。意見にされてしまうと大変困る。繰り返すがこれは要望である。

以上

《上流域（中津道地区、田上地区） 参加者：37名》

【意見・質問等】

中津道：以前のかさ上げ事業については、どういう点が良くてどういう点が悪かったのか説明してもらいたい。坂本町内では河川の土砂撤去作業が進んでいるが、中津道では行われていないが、今後行われるのか。今回の災害では中津道では3m以上浸水した。以前は堤防をつくって守るということになったが、中津道の河川の石垣は崩れ、家屋はまだ浸水したままの状況で汚く見える。そういう点についてなぜ中津道だけ遅れたのか説明と今後どうなるのかを聞きたい。また、築堤をしたうえで宅地かさ上げが行われるのか、きちんと説明してもらって安心して帰りたい。

【回答】

国：以前のかさ上げ事業とは対象となる水位、豪雨の規模が全く異なる。これまでの河川事業では、中津道地区については鎌瀬橋の下流でかさ上げ・堤防の事業、県の道路のかさ上げの事業を交互に実施していこうとしていたところ、県の道路の1回目の工事の時に浸水した。平成19年に決められた当時の河川整備基本方針に基づいて、将来的な掘削、将来的なかさ上げ計画に基づいて進めていた。これらの事業は旧河川整備方針に基づいて実施してきたが、今年の豪雨は規模が非常に大きく鎌瀬橋も流され、流域のあらゆるところで多様な事業を実施していくことになる。災害規模が異なるため、鎌瀬橋の架け替えなどにあわせて河川整備や道路のかさ上げだけではなく、鎌瀬橋の位置も含めて考えなければならないなど複雑さが加わっている。堆積土砂の撤去について中津道にはまだ着手することができていないが、特に鎌瀬橋から上流については川の中の土砂撤去、掘削が必要と認識している。基本的には流域治水対策プロジェクトの最初の5年間で掘削事業や宅地かさ上げをすることを目標としており、明確な日にちはお伝え出来ないが、なるべく早く着手したいと考えている。中津道については郵便局前のかさ上げ事業で地元からの要望をいただいていたため、かさ上げの計画が坂本町の中でも遅くなってしまったことをご了承いただきたい。

【意見・質問等】

中津道：今の鎌瀬橋のところについては、国と県で道路のかさ上げをやることになっているが相当遅れている理由を説明してほしい。そこをかさ上げしていくことによって中津道の問題点がどう変わっていくのか。

【回答】

国：鎌瀬橋の高さが非常に悩ましい問題である。集落を守るための河川事業と交通網としての鎌瀬橋、両方重要だが、鎌瀬橋の高さは県道側との擦り付け、国道の高さ関係なども含めて悩ましい部分があり検討に時間を要しているというのが現状である。特に鎌瀬橋の下流の皆さんには戻ってくるのか災害公営住宅に入居されるのか、鎌瀬橋の上流については公

民館や神社跡地などもあるため、地区全体をどうしていくのか皆さんのご意向を伺いながら、準備が整ったら改めてご説明に伺いたい。

【意見・質問等】

中津道：中津道地区の築堤には大体何年度から入られる予定なのかをしっかりと示していただきたい。なるべく早めに工事を行って住民が安全に生活できる準備をしてもらいたい。中津道が一番遅れている。

【回答】

国：繰り返しになるが、何年度になるのかは現時点では申し上げられない。早めに着手させてもらいたいという気持ちは変わらないため、気持ちを汲んでいただきたい。

【意見・質問等】

下鎌瀬：輪中堤と宅地かさ上げはどちらかを選ぶということか、既に被災した住宅は撤去されており、輪中堤プラス宅地かさ上げはできないのか。また、宅地かさ上げはどのぐらいの時間がかかるのか。再建する意向のある家屋等との記載があるが、再建は20年後でもよいのか。「等」はどのようなもの想定しているのか、小さな小屋のようなものも対象になるということか。

【回答】

国：基本的には河川事業による輪中堤か、宅地かさ上げのどちらかを選択してもらうことになる。そのうえで、自治体のまちづくりとの連携のなかでこういうことができないのか、といった要望をこの後お聞きできればと考えている。再建する意向のある家屋等については、公費解体されて仮設住宅などで仮住まいの方が戻ってこられる意思があれば対象となる。公費解体された家屋についての補償はない。戻ってくるという意向がある方は更地に土を入れて家を建ててもらっても考えられると思う。輪中堤・宅地かさ上げ事業の目的の「家屋等」は家だけではなく小屋なども対象になるという意味である。今後、相談会などで輪中堤か宅地かさ上げかの意向を決めていただければ、まず建物の調査、補償の調査の準備をして早期に宅地かさ上げができるように準備する。どのぐらいかかるか期間は明言できないが早急に着手できればと考えている。緊急治水対策プロジェクトの第一段階までに宅地かさ上げ事業や掘削事業を実施したいと考えているため、河川事業としては限られた期間での盛土となる。

【意見・質問等】

下鎌瀬：下鎌瀬では被災した古民家等の家屋をリフォームして住まわれている家が2軒ある。また、元の場所に家を作りたいという方もいる。一帯をかさ上げするのか輪中堤にするのか、方針が決まったところから進めていくということだが、宅地以外の農地や駐車場はどうなるのか、それらも含み凸凹なしに一体的にかさ上げされるのか。設計より先に、こういう形になる、ということが分かったほうが判断しやすいため、どういう形に設計されるのか知りたい。下鎌瀬は支流でも被害があり2軒の家が流失して公費解体した。リフォームして住みたいという家もある。そこも同じように輪中堤や宅地かさ上げを検討するのか。支流部は図面上で着色されていないため、こういう形にします、という資料、県道や宅地、農地、電柱などがどうなるのかを示してほしい。

【回答】

国：午前中から引き続き、皆さんの共通の意見、指摘であると考え。そういったことも含めて、この後の地区別のグループ討議でそれぞれの地区でどうありたいのかお聞きしたいと思っている。昨年の豪雨規模があまりにも大きく、緊急治水対策プロジェクトは、あらゆる関係者が、あらゆる対策を実施することで、河川に入ってくる洪水を下げる努力をすることとしている。河川の掘削も行うが、それでも宅地かさ上げ・輪中堤を実施しないといけない。それらを経てようやく家屋を浸水から守ることができる、という事業である。全体の財産を守りたいが、まずは生命、住むところがより重要ということである。坂本町全体では堤防の整備はかなり進んでいるため、それらをもう少し高くすれば地域ごと守ることができる、というのが輪中堤。宅地かさ上げは、堤防はそのまま宅地を対策後水位の高さまでかさ上げするという。繰り返しになるが、事業の基本ベースはそこである。皆さんが望むのは今後の地区の復旧・復興のあり方だと思う。地区がどうありたいのかを聞きながら検討していかないと、球磨川流域3市町村51地区の全てで、設計パターンを検討するのは現実的に厳しい。住んでいる方や、今後戻るともりの方の気持ちも含めて、地区としてどういう復旧・復興を目指すのかを聞かせてもらいながら検討を進めたい。そのために「輪中堤・宅地かさ上げに係る相談会」があるということをご承知いただきたい。

【意見・質問等】

西鎌瀬：かさ上げ事業は再建する意向がある家屋等ということだが、かさ上げの事業は国がやるのか、県や市がやってくれる事業はあるのか。公民館もかさ上げの対象になると聞いたが、お堂なども対象になるのか、お墓などもそのまま置き去りにして家だけかさ上げするというわけにもいかない。そういったものも対象となるのか。西鎌瀬地区で6か所、ボーリング調査を実施すると昨日耳にしたがどういった内容なのか。

【回答】

国：宅地かさ上げ事業については国が補償金の算定や協議まで実施する。公民館については、ぼつんぼつんとあるようなケースについては協議させてもらいたい。地区全体でのかさ上げを行う場合に、公民館が含まれている場合は、コミュニティとして必要であれば対象に入れていくことになる。お墓も同様であり、公民館と同様に孤立してあるような場所は協議させてもらいたい。家の横などにあるものについてはかさ上げするのか、移転するのかの補償を調査して決めていきたい。ボーリングについては地質の状態を調べるもの。使い方としては今後掘削するにあたってどれだけ固い岩盤があるのか、あるいは輪中堤・宅地かさ上げする場合であれば、かさ上げする土地の傾倒がかさ上げにより安定しているのか、そういった地盤が安定しているかどうかの判断などに活用されるものである。

【意見・質問等】

西鎌瀬：鎌瀬橋の高さについては、これまでよりも1、2m高くしないとまた流される。以前と同じ高さで整備されることはないと考えられるため、宅地についてもその高さにあわせて欲しい。橋は高くして地区の人はそれより低いところで暮らせ、という話は矛盾であり本当におかしい地区になってしまう。今の国道は危険なため特に女性は怖がってなかなか帰ってこないが、道路の整備にあわせて輪中堤・宅地かさ上げをしないと安心できないため、橋の高さで道路も宅地もやってもらえればと思う。また、納骨堂が壊れずに残っているため、

そこについてはかさ上げを実施してもらいたい。

【回答】

国：道路の復旧・復興事業については八代復興事務所で実施している。片側通行等でご不便をおかけして申し訳ないがご協力いただきたい。もっともなご意見であり、道路からは災害に強い道路が必要ということと、橋梁の高さについては復興まちづくりなどと連携として、ということ考えている。

【意見・質問等】

下鎌瀬：宅地かさ上げについて、家はなくなって更地になっているが、基礎部分を高く作ってその上に家を建てればかさ上げになるのか。

【回答】

国：宅地かさ上げの場合、既にお住まいのケースでは、家屋をジャッキアップして空間をつくり、盛土材を入れて締め固める。公費解体で更地になっている場合については、家をつくるタイミングにもよるが、締め固めの転圧に重機が使用できる。基礎を高く作る、については具体的にどのようにお考えなのかイメージを後ほど個別に確認させてもらいたい。

以上

《下流域（西部地区） 参加者：26名》

【意見・質問等】

古田：古田地区については、まだ温度差はあるが、輪中堤のほうが良いという意見である。県道に囲まれており災害で一部損壊して工事が入っている。釣り船の出し入れをする関係で水門のように閉じることができない場所があるが、それを閉じることができるのか。地区内には水門が3か所あるが、支流の水を本流に排出するポンプ設備のようなものができれば、大規模なかさ上げなどはそれほど必要ないのではないかと考えている。

【回答】

国：古田集落の護り方のありかたのひとつとして、例えば輪中堤を選んだ場合、樋門・樋管箇所への閉じ方については、外水から守るためにしっかり閉めなければ堤防の意味をなさないため、現状に近いやり方にそういうご要望があるということ、後ほどの意見交換で具体的にここを閉めた方がいいといったことをお伝えいただければと思う。一方で支流対策にも関係するが、メリット・デメリットとして輪中堤の内水をどう排除するかの問題がある。支流の管理者と相談しながら、ということになるため、県・市とも調整しながらにはなるが、まずは皆さんでご議論いただいて、そのうえで宅地かさ上げなのか輪中堤なのか、それ以外にこんな方法で地区としてはありたい、といったご意見をいただきたい。

【意見・質問等】

段：かさ上げた場合に個人で負担する費用がどのくらいになるのかによって、地区としてはかさ上げを選択しても費用の問題で自分はやらない、というケースが出てきてチグハグになる懸念がある。具体的な金額を示すことは難しくても、どのように算定されるの

か、算定方法を教えてもらいたい。地区で宅地かさ上げと輪中堤の意見が両方出てきた場合、その地区で決めるしかないのか。段・小川・横石は一体で取り組む必要があると考えているが、例えば段はかさ上げ、横石は輪中堤といったようにバラバラの意見が出た場合はどうするのか。球磨川の右岸は県道が堤防代わりになっているが、それぞれの地区がかさ上げを選択した場合でも県道はそのままになるのか。県道の高さまで水面が上がり、横にガードがついていたから堤内に水は入らなかったが、水抜き穴の部分から道路に水が流れてきた。そういうところについて、個人の宅地がかさ上げになった場合には堤防は全く対策を行わないのか。横石・段・小川の境に中小の河川があり、輪中堤となった場合はかなり内水氾濫を起こす確率が高いと考えられるが、それに対する手立てはあるのか。そういう前提をはっきりさせないと意見交換できない。

【回答】

国：輪中堤や宅地かさ上げの高さについては資料のなかに対策後水位の線、県道を袈裟堂川から見たときの高さの線が示されているが、実績の水位でも県道を超えていない。また、緊急治水対策プロジェクトによる対策後にはさらに水位は下がる。このため、袈裟堂川の内水をどうするか、というのが課題になる。内水については支流の管理者と協議しながら決めていくことになるが、袈裟堂川の規模が大きいため非常に難儀している。下流の小川、段、横石が一体になった話が必要だと考えられる。県道は高さとしては満足しているが、内水については樋門を閉めたときにどのようにポンプで排水するか。また、仮に宅地かさ上げとした場合には広範囲であるためかさ上げのために必要な土量が多くなり、非常に時間がかかる懸念がある。まずは率直な意見を皮切りに議論させていただき、それぞれの地区で話をした上で、また集まってお話させてもらえればと考えている。個人負担の金額についてだが、調査を実施した上で補償金額を算出することになる。項目としては、建物についてはかさ上げ費用と解体費用・建物の現在価値のいずれか安いほう、かさ上げの費用は業者の見積金額となる。建物の現在価値の算定は簡単に説明できるような式ではないが、建物の耐用年数と経過年数によって価値が下がっていく、という算定式である。その他、立木や動産移転料、仮住居補償など、調査してみてどれぐらいになるか、というのを算出して協議に入っていく流れになる。今日この場で金額を示すことは難しく、調査をしてから、ということを了承いただきたい。

【意見・質問等】

段：固定資産税の評価額とは違うのか。

【回答】

国：考え方が全く異なるため、かさ上げを行う場合は業者がどのぐらいの価値があるかを調査することになる。

【意見・質問等】

段：家の経過年数が5年の家と20年の家では、20年のほうが自己負担額は大きくなるということか。

【回答】

国：一般的には建物が古いほうが自己負担額は大きくなる。

【意見・質問等】

どのぐらい自己負担しなければならぬのか懸念しており、負担が大きければやめよう、と考える人も出てくる可能性がある。今までこういう事例は全国的にあったと思うが、これまでの事例として、例えば経過年数がこのくらいであればいくらぐらい、といったことを例示することはできないか。

【回答】

国：被災した建物をかさ上げするという事例が全国的にあまりない状況である。リフォームされていない家をかさ上げた場合には少なからず自己負担が発生することになるのではないかと考えられる。

【意見・質問等】

宅地かさ上げについて、小川地区は袈裟堂川の関係があつてかさ上げが最も難しいという話があつたが、自己負担がどのぐらいの金額になるのか目安がないとなかなか話ができない。築年数が経っているほど自己負担が大きくなる、ということだが、例えば30坪だといくらぐらい、といった例がないと話ができないので、何か情報として出せないか。具体的な数字が出てこないとなんと漠然とした話であるため、数字を示してもらわないと検討できない。

以上